

## 【開催概要】

日 時： 平成25年9月2日（月）午後7：00～午後8：30

会 場： 西地区公民館3階 ホール

出席者： (仮称)内野地区集会施設検討委員会 委員

岡本委員、青柳委員、渡辺委員、元木委員、大川委員、横山委員

事務局

泉区長、小林西区地域課長、小出西区地域課長補佐、西区地域課職員、

石塚西出張所長、長谷川西出張所副所長

## 【会議内容】

### 1 開会

### 2 議事

(岡本会長)

第11回の検討委員会、これから始めます、よろしくお願いいたします。

昨年の10月15日から今日で11回目になりますけれども、この間、ご審議いただきありがとうございます。途中、ネーブルみつけ、黒埼市民会館、生涯学習センター、それから東区プラザ等々を見学しまして、これを基にこの地域の集会施設がどうあるべきかを議論していただきました。

今日は最終回になるかと思えますけれども、いろいろな意見を交わしてまいりまして、集大成として要約いただきました。今日は、お手元の11-1を基本に説明をお願いして、そして議論をして、最後の会議にしたいと思っております。その後の在り方についても説明があると思えますので、よろしくお願いいたします。

今日は、道上先生が大学の関係で長期に外国に行っておられまして参加できませんし、小林委員がちょっと都合がつかなくて欠席になっております。事前にこの資料をお渡しして、この内容で最終的な集約をしたい旨をお伝えしているかと思えますが、その辺も含めまして、また事務局のほうから説明をしていただきたいと思います。

(事務局：西区地域課職員)

ただ今会長からご案内ありましたが、道上先生が長期のお出かけで、8月26日に大学にお邪魔いたしまして、こちらの「基本構想(案)」に基づいて、概要を説明させていただきました。

道上先生からご質問のあったところは、まず、集会施設の建設規模がどのくらいであるのかということで、後ほど詳細な説明は別途ございますが、建設規模としては、出張所や健康福祉センターの機能も含めておおむね 3,000 平米ぐらいということをご説明差し上げました。この内容について、道上先生のほうからは、基本的に地域の検討委員の皆さまが活発に議論をしておられるということで、基本的には内容については了解いただき、今後については、地域の交流拠点として活用される運用を望みますと、コメントを頂戴しております。

本日、所用でご欠席の小林委員からは、残念ながら、「基本構想（案）」に基づいて説明はできなかつたんですけれども、これまでの回を通して、内野地区集会施設で、幅広い世代、広く地域の方が利用できる、そういう交流施設になることを望みますと意見を頂戴しております。いずれも今後の運用や、使い方でのんな展開がされるのかを期待されてのご意見というふうに承っています。以上になります。

(岡本会長)

ありがとうございました。それでは、「基本構想（案）」について事務局から説明をお願いしたいと思います。

(事務局：小出地域課長補佐)

－ 配付資料 11－1 を説明 －

(事務局：小林地域課長)

1つ訂正をさせていただきたいと思うんですが、5ページの一番下のコミ協事務室のところに「集会施設の管理及び利用申込受付等」と書いてありますが、ここで集会施設の管理と利用の受付をする予定ではありますけれども、こういうふう書いていくと、コミ協がやるような形にちょっととられるもので…。

(泉区長)

私のほうから、説明させていただきます。7ページをご覧いただきたいと思います。

(岡本会長)

7ページと合わないな。

(泉区長)

7ページでは、「施設全体に係るものについては出張所で行い、集会施設については、基本理念を踏まえて、指定管理制度を活用した管理を地元と検討・協議していく」という段階でございまして、具体的な固有名詞としてコミュニティ協議会に管理を任せるところまではうたっておりませんので、今の段階でコミュニティ協議会の事務室をこの役割に固定してしまいますと、「構想（案）」としてはちょっと出過ぎているという点がございます。指定管理制度というのは、基本的には地元の意見を聞いた上で、公募だったり、あるいは随意契約だったり

いうことを前提にしておりますので、ここまで言うところとお互いに、地元の方々もコミュニティ協議会の方々も了解を取った話ではないので、例示としてならいいんでしょうけれども、こういうふうに役割を限定するのはちょっと書き過ぎかなと思っておりますので、申し訳ありませんけど、5ページの2つ目のポチにつきましては、一旦外させていただきたいというのが事務局側の提案でございます。以上です。

(岡本会長)

ありがとうございました。ただ今の説明いただきましたこの件につきましては、皆さんのほうからご意見あるいは質問等ございましたら、ぜひ発言をしていただきたいと思いますと思いますが、いかがでございましょうか。

(青柳委員)

6ページ、講座室の利用目的、利用例として、「災害時の炊き出し」というのが入っております。これは今まで話を皆さんで積み上げてきた上でなんですけども、冷静に考えてみますと、この地域だけで一時避難ということでどれぐらいの人数が来るかわかりませんが、それに能うだけの炊き出し設備というのは一体どの規模が要るのかなということも、載っけておくのは確かに非常にきれいなことだとは思いますが、仮に極端なお話をすると500人ぐらい一時避難をしていると。なのにシンクが2つしかないということでは、一応うたっただけかなということでもまたうまくないので、そこら辺も突っ込んで意識したほうがいいかなとは思いますが、具体的にシンクがいくつ要るとか、あるいはこの文言を外すとか、そういうことはありませんけども、実現化していく中では十分に検討されていくことを期待いたします。以上です。

(岡本会長)

この点、どんな感じしますか。

(泉区長)

そういう役割を担うというふうになるとはわかるんですが、青柳委員がおっしゃったように、過度な期待感を持たれるような施設になっているのかどうか、それはまた別な話だろうと思いますね。そういう点では、無理にここの講座室にそれを書かなくても説明はできるんじゃないですかという意見もあるかと思います。青柳委員がおっしゃったのは、無理に取る必要はないけども、検討の際にはよく考えてねと言われたその真意をとれば、私としては、大きな話題ごとの中に一時避難の役割を果たす機能を入れておくことは、大事なことだと思いますので、ホールの中に入っておりますので、それ以下の機能ははっきり言えば出過ぎというか、いろんな形での考え方ができるわけですけども、まだ備蓄機能も最終的に決まったわけではないので、ちょっと書き過ぎて過度な期待を持たれるのもどうかという点は、青柳さんの話を聞いてそう思いました。

(青柳委員)

実現できればそれにこしたことはとありますが、こういうふうにならなくて、小学校の調理実習室よりも随分規模が小さいというと、何これ、ということにならないように期待いたします。

(泉区長)

検討させていただいて、最終的な「構想(案)」の中で、あえてうたうかどうかも含めて検討させていただきたいと思います。

(青柳委員)

それを担える機能のものを作ってください、ぜひ。

(泉区長)

今の災害の考え方というのは分散型が主流ですので、1カ所で全ての炊き出しをやるというよりは、あそこでもできる、ここでもできるといったほうが、片一方が沈んだとき、片一方が助けられるというシステムのほうが、正しいやり方だと思っています。

(岡本会長)

私のほうから、先ほど、コミ協事務室のというのは、5ページの一番下段と、7ページの管理運営のところとの、これ、ポチの「内野コミュニティ協議会事務室」というところを削るだけでいいかね。もう一工夫要るみたいな感じがするんだけど。コミ協事務室があつて、集会施設の管理及び利用申込受付等は全部このコミ協でやるというふうにとれると…。

(泉区長)

まずいで、この2つ目のポチは消したいなと。

(岡本会長)

2つ目消して、これ1個か。それでわかった。

(泉区長)

ただ、そうなるとコミ協事務室ありますよだけで書いてないんで、どこかについて困るんですけども。

(岡本会長)

いやいや、2つ消せばいいんだわ。全部結局消せばいいと思いますよ。

(泉区長)

コミ協事務室入るということだけはやっぱりここで。

(岡本会長)

入れていかんとね。

(泉区長)

ええ。せつかくコミュニティ協議会の拠点ですから。

(岡本会長)

ここが中心になると思いますのでね。期待もしていますし。まちづくりの中核というのは、各コミ協全部、今やこれぜひというふうになってますからね。

もう1つ、地元説明をどんな形で、どういう資料に基づいてやるのか。

(事務局：小林地域課長)

地元説明については、この形での「基本構想(案)」がまとまった段階で入る予定でおります。ただ、今のところいつというのは決めておりませんが、形としては、こういう形で「基本構想(案)」がまとまっておりますので、これを基に説明していくのが一番いいのかなと。ただ、この内容についてさらに補足的な形で、こういう趣旨とかそういうものを入れながらやっていく、説明していくのが一番わかりやすいかなと思っています。あくまでもこの基本構想が一つの姿になりますので、それを基に説明していきたいと考えています。

(岡本会長)

例えば、この基本構想全部出して説明をすると？

(事務局：小林地域課長)

これが今一番まとまった形で、検討委員会の皆さん方がご議論いただいてこの形で固まりますんで、それを基に説明していくのが、この集会施設の中身が一番理解できる内容になるのかなと思っております。

(岡本会長)

それと、地元説明をどういう方法で、例えば西区の広報に載せるとか、ここを使って説明会を開催をするとか、さまざまあるわけですが、どんなやり方を考えますか。実は『内野コミュニティだより』を年4回発行していて、これは全世帯に行くんです。これに、この構想を全部の載せれば全部の世帯へ行くわけです。それでアンケートとるとか意見を募集するとかも一つの方法だと思うんです。私どもの広報の発行は10月で、その次は来年になってしまうんです。地元説明が終わってから自治協に説明して、それからパブコメ、こういう順序ですか。

(事務局：小林地域課長)

はい。

(岡本会長)

そうすると、地元説明をどういう資料で、どういう形でやっていくかがポイントになってくるみたいだね。

(事務局：小林地域課長)

まだ基本構想という段階なので、形としては、絵とかあるのが一番いいんでしょうけども、そういうのを今作れる段階にないですから、やっぱりこれで説明していくように。

(泉区長)

基本的にはこの「基本構想（案）」ですね。

(岡本会長)

案だね。

(泉区長)

あくまでも「案」ですね。「案」は取れる時期というのは、やはり「基本構想」という名前に変わるときというのは、やっぱり我々の行政的な手続きから言えば、来年度予算が確定し、しっかりと道筋が見え、かつ、地元の方も大方ご了解いただいたというところをもって「案」が取れるという考え方を持っていますが、あくまでも「案」、おまけに主体とすれば、皆さまのこの検討委員会でいただいた意見を参考にしながら、西区としてこういう「構想（案）」をまとめてみましたという、責任主体は西区にあるという形を出していこうと思っています。

従いまして、例えば今ご提案がありました、地元コミ協だよりの中で伝えることも可能ですが、いう形になると、要するに、「こんなことを役所が検討してて、コミ協だよりに出してくれという話もあったんで、内容をお知らせしますと。ついては、地元の方々に意見があれば西区のほうにお伝えください」と言うのか、それとも、「一旦コミ協で預かります」ということか、何か注書きがないとなかなか運用趣旨が。

(岡本会長)

私は、こういう検討委員会が終わって、こういう構想ができましたと、一つの案ですと、この案を基に行政が基本設計に入って、予算を確定して、それから実施の段階に行くんだけど、一つの検討委員会の案が最終的に今まとまりましたと、これをお知らせしますと、この取り扱いについては、今後のいき方については、行政側でこれから自治協で説明したり、パブコメをやったりということになるだろうという説明をコミ協だよりに流せば、全部のところへ。

(泉区長)

それは可能だと思います。

(岡本会長)

ただし、そのタイミングがいつかと内容。

(泉区長)

今、お話を聞いて、もうコミ協だよりの編集も進んでいるんだろうと。

(岡本会長)

いや、これからです。

(泉区長)

これからですか。あとは、私どもが先ほど会長さんおっしゃったように、どういう形でどの

資料でもって地元の説明するんですかという話ですが、私どもの今の考え方の中に、はっきりしたことが今、言えない理由は、いくつかのパターンが考えられる中で、どの方法がこの地区にとって最もふさわしい話なのかって、なかなか難しい点があると思っています。

ただ、私は今のところ考えているのは、一つの案としてお聞き取り願いたいんですが、この資料そのものを出したって、そう面倒な話を書いているわけではないんで、この資料そのものを出して、悪ければもう少し検討委員会のところを薄めても構わないと思うんです。名前は、検討委員会で検討しただけでもいいと思うんですけども、内容が一番問題なんですね。この施設の機能と概要のところが一番問題なので、その辺のところをこの資料を使って、私としてはコミュニティの拠点を最大限にうたっておりますので、まずコミュニティの拠点となる場であるはずのコミュニティ協議会の方々にお集まりいただいて、まず説明するのが筋かなというのが、私どもの西区としての第1回目でございます。

それを含めて、コミュニティ協議会だけでは、全てを網羅したことにならないのではないかという意見が出てきた場合については、それに応じて地元説明させていただきたいということで、例えば商工会でも説明してくれと言われれば、商工会に行つて説明が必要になってくるし、それから学校関係でも集まる機会があるので説明してくれないかと言われれば、学校関係で。ただ、基本的にはコミュニティ協議会をまず先頭にお話をさせていただくというのが、この施設の基本理念に合致する話ではないのかというふうに進めたいと。

(岡本会長)

コミュニティ協議会の役員会で説明しても、そこにまた同じ意見が出てきて、一般の人にどう知らしめるんだというのが必ず出ます。みんな関心持っていますから。構想の中身に入らんで、やり方の説明のところまで行ってしまいましたけども、そんな気がします。今後詰めていただいて。せっかく『コミュニティだより』があるので、そこへ載せれば全部いけるという方法がありますから、絵を描いて立体図描くという話じゃなくて、活字にしたこれくらいのものはお知らせをしておいたほうが、「全然知らなかった」なんて話は、この頃、「聞かんかった、知らなかった」ってはやりますから…。

(泉区長)

たよりに出すのであれば、役員の皆さま方にお知らせしないままにたよりが出てしまっても何でしょうから、その前に私どもとしては説明はさせていただいた上で、10月1日のたよりという手続きを踏むのが理想、日程が合えばそれが一番だと思っていますが。

(岡本会長)

金さえ出せば知らせる方法はいくらでもあるんですけども。

(泉区長)

私どもの難しいのは、西区だよりに載せても、地域施設なもんだから、坂井輪、黒埼の人が  
どういうふうに見るかなというところを考えたときに、そういう載せ方がいいのかどうか  
ということも考えていかなくちゃいけないと思っています。いろんな方法があると思います。  
刷って回覧を回すという方法もあるんだと。ただ、我々は等しく1回、1回とは言わず数回で  
もいいんですけども、やっぱり我々の言葉で、活字になったものだけではなくて、皆さん方  
のお話を受けた形で、私どもの説明する機会を地元に設けるのが正しいやり方だと思っています。  
(岡本会長)

せっかくここまで行政がやってくれるというのは語弊あるかもしれないけど、やるんですか  
ら、前向きな話なんですから、地域の人にぜひ知らせ、よく、もう何年の要望ですから、そ  
れ実現するんだよという前向きなことで説明をどんどんしていただきたいという感じを、  
私は持っているんです。

(泉区長)

私も最後に言おうと思ってた、皆さんも含めて、みんなしてこれをぜひ盛り立てていただき  
たいと思っている最中ですので。

ただ、この手の集会施設で全員の意見を聞くという試みは、多分あまり行政のほうはしてな  
い。だから、いろんな方々の各界各層のご意見を聞いて、それでもって集約したという形をと  
っております。従いまして、人口の多い地区でもございますので、一般的に全ての方々に行き  
届いたという確認はとらないので、申し訳ありませんが、それはおおむね了解していただき  
たいと思っています。

(岡本会長)

わかりました。そういうスタンスということですね。他に意見があったら。

(青柳委員)

延べ床面積おおむね 3,000 平米、わかんないんだな。ちょっとピンとこないんですけども、  
この建物ってどれぐらいですか。

(事務局：小林地域課長)

ここは確か 1,600 平米ぐらいですね。

(青柳委員)

この建物が 1,600 平米ぐらい。そしたら、倍まではいかないけども、これよりは、階数がど  
うなのかももちろんあるでしょうけども。

(渡辺委員)

一番近い施設ってどんなもんですか。

(泉区長)



ここは行政施設も入っているわけですからね。

(岡本会長)

この倍だと。大体3階。

(青柳委員)

でも、要は横2倍なのか、縦2倍なのか。

(岡本会長)

これが3階だから、大体横も増えろ。

(青柳委員)

ということですよ。

(渡辺委員)

3階っていう構想案は書いてない。

(岡本会長)

3階でいいんだね。

(事務局：小林地域課長)

その辺はまだ未定です。

(青柳委員)

ですよ。でも、ここ、僕が言えるのは、上に伸びるか、横に伸びるかわからないけど、おむね倍ぐらいみたいな感じになるわけですね。それでわかりました。

(泉区長)

何か書きましようか。

(岡本会長)

書いたほうがいい。理論ばかりで、3階なのか4階なのかと。ただ、用地との関係があつて。

(泉区長)

ちょっと言えない。じゃ、おむね、例えばよく言う言葉ですけど、東京ドームの何倍とかという言い方しますよね。そんな言い方で何かできる方法があるのか。

(青柳委員)

これが例えば2階建て3,000平米で、なおかつこの条件を満たすところといたらもう決まってくるわけですよ。はっきりと明言しないだけの話になるわけですね。これが縦に伸びるかもしれないといたらまた候補地は広がるわけですよ。だから、それがどういったものなのか、ここまでいくと素人だとわからない話なので、僕なんかだとわからんということなんですけど、今、ここ伺ったのは、ただどのぐらいの大ききなのかなというのがピンとくるように伺ったということです。

(泉区長)

貴重なご意見だと思います。多分、説明会だとそんな話が出てくる。

(岡本会長)

出てきますね。

(泉区長)

工夫します。

(事務局：小出地域課長補佐)

補足ですが、視察にも行かれた黒崎市民会館が延べ床で 3,758 平米。あと、西新潟市民会館がほぼ同じぐらいの 3,849 平米でちょっと大きいですかね。

(泉区長)

比べないほうがいいな。行政施設入っての床なんでしょう？

(事務局：小出地域課長補佐)

そうですね。

(岡本会長)

あれ、行政施設でないから。

(事務局：小出地域課長補佐)

これはもう市民会館だけの面積という形ですので。

(泉区長)

だから、何か工夫が要るな。行政施設を含めて 3 階に入れるんだから、誤解されて集会施設が 3,000 平米と思われても困るし。

(岡本会長)

それで、ちょっと飛ぶみたいだけど、基本理念の中に行政施設はほとんど入ってないんですよ。これはあえてうたわなかったんだと思うんだけど、複合施設であるというのが基本理念の中にほとんど入ってないから、この文句の中に。となると、3,000 平米と、この基本理念のここという感じも受けない…。これあえて入れなかったんですかね。

(事務局：小林地域課長)

基本的には集会施設の基本構想なので、逆に行政施設のほうを入れても、行政施設自体は今の施設を基本的に建て替えるということなので、そこに新しい構想とか内容を盛り込むとかいうのは基本的に必要ないと思いますので、入れないほうがすっきりした形になります。

(大川委員)

普通でしたら、集会施設がどのぐらいの大きさというふうに入れたら駄目なんですか。

(泉区長)

それも方法ですね。

(事務局：小林地域課長)

いい方法なんですけれども、共用部分をどういうふうに入れるかというのが出てきますので。

(泉区長)

役所の人間があえて入れる必要ないということじゃなくて、これから地元の皆さんに説明していくときに、誤解を与えない方法をどうやって組むかということを実際的に考えないと駄目だから、例えば、おおむね 3,000 平米程度にした場合については、集会施設機能の面積はおおむねどれくらい、行政機能の面積はどれくらいと書いたら。

(岡本会長)

そうしないとわからないようになってしまう。

(泉区長)

説明しにくいと思う。

(事務局：小林地域課長)

じゃあ、基本的な床面積で按分するような形でもう 1 回出します。

(泉区長)

それはおおむねの話なので、そこから逸脱したからどうのこうのという話ではない。

(事務局：小林地域課長)

3,000 平米というのは、全体ではそうですね。あとは行政施設と集会施設の部分でおおむね何平米でということで、分ける形にしていくわけですね。

(渡辺委員)

階層の説明はなしですか。

(事務局：小林地域課長)

階層はちょっと。

(渡辺委員)

そうすると、この交流スペースと学習室の「1 階」は削ったほうが。これがあれば、「何階なの」という意見が絶対出ますから。

(泉区長)

そのとおりですね。

(渡辺委員)

階数が書いてあるので、じゃ、何階が何があるんだって必ず意見として出ると思うので。

(事務局：小林地域課長)

これについては、皆さん方の要望でぜひ 1 階でという話があったもんですから、1 階に。

(泉区長)

誤解を与えるね。全部取ったらどうか。

(青柳委員)

1階じゃなくて入り口付近に造るとか、言い方を変えて。

(事務局：小林地域課長)

そうですね。

(事務局：小出地域課長補佐)

じゃあ、階数はそういう形で。

(泉区長)

皆さんもうご存知と思いますけれども、どうしてもこの話になってくると用地問題が出てくるものですから、多分その説明を我々ももうちょっとできれば、その質問が出てくるといことなんですが、今の段階で、この検討委員会の基本構想の段階の中で、それまでもはっきりさせてやるべきなのかというのはありました。だけど、我々としては今のところ予算の担保がないので、まず、全然出せないというのが現状ですし、例えば用地を取得するという話になった場合に、どこかというような話に、地元の方に説明するのに一番難しい話なので、あえてここでは用地取得の話もしてないし、それどうだろう、現有地だって大体あり得る話ですし、行政施設を建て替えるわけですので、現有地の土地を持っているわけので、そこをどうするかという問題もあるので、あえて今回は…。

(岡本会長)

でも、検討委員会で階もきちっと決めないで、何をどこへ造るなんて検討は、私はあり得ないと思うんです。やっぱり2階だったら2階、3階だったら3階と検討委員会で検討したと。それが後で崩れる可能性もある。増える可能性もある。何階だかわからんが検討委員会やりましたなんか言うて、そこはきちっとしないんだよな。

(事務局：小林地域課長)

少なくとも災害時の一時避難場所という位置づけになりますので、3階以上にはなることは間違いないと思います。

(泉区長)

そしたら、書くか。

(事務局：小林地域課長)

3階以上とか、そういう書き方で。

(岡本会長)

そういう書き方だね。津波の関係もあるしね。ここものすごく低いから。だから、そこをぼ

かすと全部ぼけてくるんでないか。

(渡辺委員)

ぼんやりとイメージできるようなものがあれば一番いいと思うんですけど。

(岡本会長)

そここのところを、今の皆さんの意見を基にちょっと検討して集約していただけますか。

(泉区長)

わかりました。

(横山委員)

この「基本構想(案)」の段階ではないかもしれないんですが、私自身、委員としてこうやって参加させていただいて、これから建つであろうこの施設にすごく愛着がもう湧いているんですが、今後、こうやって地元の説明して、これが全て通ったとして、基本設計ができたり、実施設計ができたときに、この段階で地元の間人が何かしらこの設計に携われるというか、アイデアを出したりする、そういう機会はありますでしょうか。

(事務局：小林地域課長)

実際にきて、使っていただく施設になるためには、設計段階である程度、皆さん方の意見を踏まえながら作っていくのが一番いいと思っているんです。そういう意味では、何らかの形でコミュニティ協議会とかを通して意見を求めてもらうなり、そういうやり方が組めると一番ありがたいと思っています。それはこれからまたコミュニティ協議会で協議をしていく形になるかと思えます。

(横山委員)

先の話になるかと思うんですけど、きっと今後、地元への説明とか、例えばこういうとこに来てそういう意見って出しづらいだろうなと思うので、もし今後、事務局の皆さんが進めていく中で、こんな意見もあったらと思っていただけると。この機能とかはどれも素晴らしくて、どれも私たちから意見はもうこれ以上は出ないぐらいのものは、やっぱりこれから先長く使っていくものとして、地元の人に愛着の湧くようなものを造る。例えば黒埼の、何でしたっけ。フィンランド風の。

(元木委員)

ログハウスのな。

(事務局：小林地域課長)

南部公民館。

(横山委員)

あの上のほうに、丹治先生と交流とかあったりして、そういう何かしら建設段階で、結構壁

に子どもの絵がとか、何でもいいんですけど、そういうものが、そういうところで地元と一緒につくり上げていけるような、長く親しみが持てるような施設になればいいなど。きれいにばーっと3Dみたいなイメージ図ができて、ポンと立っても、できちゃっても、それから飾ることとかはできるんでしょうけど、やっぱり作っていく段階から、そうやって地元の人間、子どもからお年寄りまで入り込んでいくことで、より愛着が湧くかな、と。

(事務局：小林地域課長)

以前、新潟駅周辺整備事務所というところにいたんですが、そこで南口広場を造ったんですけども、コンペの段階から市民の意見を入れながらやってきて、基本設計と実施設計のときにもまた意見を活かしてやりました。それで、できた後も、関わった市民の皆さんから、せっかくここまで造ってきたんだから、これからの運用にも関わりたいというので、NPO法人を作って今もいろいろと活動しております。

そういう意味では、設計段階から皆さん方が関わった形で造っていくのは大事なことだと思っていますので、これからもそういう形でこういう会議で意見を聞きながら、設計に反映するなりしながら、できるものとできないものがあるかもしれませんが。

(泉区長)

ただ、そこまでやってると、むしろ今度基本設計だけで終わっちゃうかもしれない。役所の場合、実施設計を作ったあとでは、細かいとこまで出してくれと、部屋の配置変えてくれと言われても、動かさない。だから、駅の南口広場という不特定多数の人間が、何万人規模で来るところにとってはそういう手法もあるけれども、内野集会施設でそこまでやってたら遅れる一方になってしまう。

(事務局：小林地域課長)

やり方はあると思いますので、例えばそれぞれの施設ごとで何か意見を聞くとか、そういう形でもいいと思っていますので。何にも、例えば出張所であれば出張所の皆さん方がいらっしゃいますので、いろんな意見を聞きながらお応えしていけますし、集会施設になりますと、相手方というのは今言われたように会議の形になりますので、そういうベースに何らかの形でご意見を聞いて、反映できるものは反映したいと。そんな程度になるかもしれませんが、そういう形で進めていきたいと思います。

(青柳委員)

横山委員からお話が出て、僕が考えてたこともちょっと関連かと思ひまして言わせていただきます。

私も市民でありますので、私の税金も使われるという立場でものを言いますと、よくありがちなのが、建物を設計するときに、コンペティションなのか、さっきの実施設というのがど

うということなのか、ちょっとよくわかんないですけど、そういう場合に例えばエレベーターを2基必要だということで設置する。ところが、後になったら省電力だということで、1基はもう全く動いてないと。こういうようなことだとやっぱり無駄ですので、やはり希望というところと、それから必要最小限というところと、実際の活用というところのバランスをうまくとっていただきたいということがあります。先ほどおっしゃられた、いろんなみんなの希望をうまく入れてというところもあるんですが、利用される方の希望は希望として、実際にお金を配分したり、建物を決定をされたりする担当の方がうまくその落としどころといいますか、歩み寄るところを定めていただいて、適地適切な建物、100%ではお互いないかもわからないけどということで、進めていただいとて思っております。最後の回なので、そういうふうにして思っておりましたということで、漠然としておりますが、以上でございます。

(泉区長)

なるべく横山委員の趣旨に従った形で、地域課長はやりたいとしておりますので、それを検討しながら。ただ、申し訳ないんですけども、やっぱり税金を使う限りは、アイデアがそれが全てということの施設を造ったところ。

(横山委員)

もちろんです。

(泉区長)

大変高く見積もりがつくということもありますので、その辺は愛着が湧くように地元の関与を一定、お話しすると、あるいは意見を聞くという機会を、なるべくならば基本設計までの間で終わらせてというのが一番希望でございますので、26年の前半ぐらいまでの間にうまくフォローできるようにしたいと思っています。

(元木委員)

横山さんの意見にあれなんですけど、例えば愛称を募集とか、そういうお金とか掛からなくても、例えば南部公民館とかだと、「あそこどこだっけ、ログハウス風の」っていう、やっぱり名称がないから、行ってすごい良かったんですけど、あの建物のあったかい感じ。でもやっぱり愛称がないから、南部公民館って言われてもこっちからこっちって抜けるけど、例えばの話なんですけれども、そういうのを募集したりするのも手だし、そういうお金を掛けなくて愛着を生むという方法って、結構いっぱいあるんじゃないかなって思います。

(渡辺委員)

私も言い尽くしたような気がするんですけど、ただ、ものすごく住民の人たちが、自分商売やっても皆さん聞いてくるんですね。答えようがなくて困るんですけど。まず、建設位置の話からまず一番初めにされるんですけど、そこはまだ決まってませんとしか言いようがないし、

とりあえず住民の人たちが納得いく落としどころを、何か説明会なりのものを考えていただかないと、後で「お前ら何してんだ」って言われそうなので、そこだけはぜひお願いしたいと思っています。

(泉区長)

むしろ私が聞きたいのは、この構想案を、これは行政が説明していく際に、一番最初に皆さんのお名前がこうやってぱっと出てくるわけですが、よろしゅうございますか。

(岡本会長)

それ一番ケツだな。このままでないでしょ。このままなのかい。

(渡辺委員)

最後にしていただきたい。

(事務局：小林地域課長)

そうですね。

(青柳委員)

この「案」という形からいくと、趣旨からいくと、順番はやっぱりこうなんだと思います。思うんだけど、希望としては後ろに回してもらいたい。

(大川委員)

でも、何かいまいち、場所も何だし、それこそ何だかみんな…。

(渡辺委員)

ちょっとぼんやりしてる感じがあるので。

(大川委員)

そうなんですよね。

(渡辺委員)

「何してるんだ」って言われる。

(大川委員)

そうなんです。「一生懸命やってるんですけど」とは言うんですけど、いまいち。とにかく場所が皆さん気になっているみたいですね。

(渡辺委員)

とにかく場所がそこで決まれば、もう他はどうでもいいという人たちがいっぱいいるんで。

(岡本会長)

いっぱいいる。

(青柳委員)

誰もわかってないんだ。うちらもわかってないし、担当されている方だって決めようがない



というか、わからないっていう。どうなるか、これからの話だし。

(大川委員)

そうなんです。皆さんが知りたいのはそのようです。

(横山委員)

例えばこの会議の会議内容に、場所に関して私たちが質問したとか、一言もないみたいなんですけど。

(青柳委員)

非公開で場所についての話し合いをしたっていうあれは載ってますよね。

(岡本会長)

階数もわからんし、場所もわからんと、だから、ぼーっとしてるんだよ。機能だけはものすごくよく書いてあるけど、とこうなるんでね。市民に対する説明の仕方が面倒なんですよね。パンチ力ないもんだから。しょうがないんだろうな。仮定は一つの仮定だから。

(泉区長)

本当言うと、場所が決まって機能を決めていくという方法もあるんでしょうけども、そういう手法をとらなかつたんですね。それは最初の検討、地元要望としていただいた意見もあるからね。用地の候補地がそこからスタートすればよかつたということはやっぱりね。普通の地元要望というのは、ここに用地があるからこの用地を市が買ってくれという、そこに建てなさいという言い方が一般的な施設。そういう方法を平成 23 年にとらなかつたんです。

(岡本会長)

要望書出すときに、そこも議論したんです。あのときは 3.11 の前の、金がない、金がないという最中だったんです。民主党政治で、とにかく金がない、縮小しよう。建設費は半分にしないなんて流れだったものだから、とつても。用地をまず押さえてくれという話も出たんです。出たけども、とにかく集会所が欲しいんだというところから、ああいう要望書になったんです。時代がそうだった、あの背景が。今も同じなんだろうけども、行政、政治のやり方によってちょっとフィーリングが変わってきましたからね。あのときはものすごく、特に建設なんて、箱物は絶対駄目というような感じの時期だったんです。

(泉区長)

今でもそれは役所の中ではそうです。厳然としていろんな意見がある。

(大川委員)

駄目かと思うんですけど、私たちが見た簡易な集会施設の配置図みたいなのがあるといいなと。でも出せないんですよ。回収されましたもんね。あんなようなのもちょっとあると、ふうんってなるんですけど、あれもなしだったりするので。

(渡辺委員)

施設の機能を見て、僕らはあれを見てるから、こんな感じになるんだろうなって想像はつくんですけども、一般の方々は。

(大川委員)

だってわかるんですけど、ただ読むんだと、字だけだと、ちょっとイメージがつかない感じはしますね。

(岡本会長)

そういうレベルで、市民に説明をどうするかというのはものすごく面倒なんですよ。

(渡辺委員)

これだと集会を開いたら紛糾しそうですもんね。

(岡本会長)

私どもは、課長さんからいただいたレイアウトみたいな、ポンチ絵でもって議論してきたから、大体わかるんですけども。

(青柳委員)

僕も含めて普通の人間はこういうふうなものを見て、平面図なんて浮かばない。例えばここに和室がこのぐらいの大きさのものがこの規模になったと言ったって、それを何階のどこに配置して、何との組み合わせでそれは形づくるのかなんて、誰も浮かばない。浮かぶ人もいるんだろうけど、浮かばない。でも、その浮かばない中でも、こういう機能をこのぐらいの規模で盛り込んで、それを最大限割いたとして、最小限の予算で造ると、こういう姿勢でいきますとしか言いようがないと思うんですね。僕、別に市の人間じゃないけど。

(泉区長)

考え方としてはそうです。何か利用法、条件をつけて、イメージできるものを出す方法は、私どももやったこともあります。ただ、それがひっくり返るんですね。

(青柳委員)

そうですね。

(事務局：石塚西出張所長)

例えば、さっきから階数がどうって話が出るけど、データとしてははじめにお示したのは、3階なんですね。そうすると、仮に3階が決定したとすると、あとはプロの設計屋さんが上手に作ってくれるもんだから、イメージとは本当に違うのができてきます。我々がイメージするのは真四角な感じになるんだけど、ああいう人が設計すると本当に見事な形に出来上がるんで、お示したのと実際に出来上がったのってえらい違うなって言われるんで、それを我々が、特に市民が考えるというと、描くとどうしてもああいう四角張った、上から下まで寸胴な、同じ

大きさのつていうのになっちゃうけど、プロの設計屋さんがやると、とてもすてきな絵が出来上がってきます。イメージが全然変わってくるもんですから、それもちょっと怖いんですね。

(岡本会長)

だけでも、これ、建設用地が、場所がここと決まって、面積がわかれば簡単なのさ。全部そこから出てるんでね。

(事務局：石塚西出張所長)

それはおっしゃるとおりだと思います。

(岡本会長)

だから、それで説明のしようがないんですよ。しょうがないんでないかな、もうしばらく。

(泉区長)

もう1回持ち帰らせていただいて、これからは我々が説明するわけですので、説明するに際して、せっかくここまでまとめたものが、また一から振り出しになるような話にはしたくない。やっぱりそうなってくるとイメージできないから、もう1つそれが無いというのは多分皆様のご意見だろうと思いますので、どのように工夫ができるか、あるいはイメージ、パースができないのであれば、平面的な構成が行政機能と複合施設になるもんですから、なおさらイメージしにくい。それを条件付きで無理やり出しちゃうかですね。

(事務局：石塚西出張所長)

やり方としては、この会議にお示したようなきちっとした形じゃなくて、楕円とか何かをごちゃごちゃと置いて、何階には大体、ここがこんな形でというよりは、ここに出張所が入って、この辺にもしかして保健センターがあって、この辺がみんなの集まるスペースでみたいな、そういう、こういう感じのちょっと置けば、イメージはしてもらえらるだろうけど、面積どうだかっていうのはなかなか見当がつかないのでいいのかなと思いますね。

(泉区長)

何か考えてみます。今、ここで結論出すような話でもないんで。

(岡本会長)

まあ、そうですね。

(泉区長)

皆様のご意見はよくわかりました。やっぱり3と4、建設の規模をイメージできるもの、建設位置がイメージできるもの、この2つがないと、なかなか内野の方々への説明は難しいと承りましたので。ただ、場所だけは申し訳ございませんが、ここは一步も譲れませんので、内野駅周辺以外のところは今の段階で出すつもりありませんし、それをやってしまうとお互いに迷惑掛かる人も出てくると思うので、我々としては出せません。勝手にイメージしてください。

それで結構だと思います。

(岡本会長)

ということだそうでございます。それと、建設のスケジュールの予定というのは、大体これでもういくんだ、と理解していいわけですね。

(事務局：小林地域課長)

これは目標です。

(岡本会長)

目標ですね。わかりました。その他、ございませんか。

(大川委員)

大体、出来上がりが29年度になるんですか。

(泉区長)

このスケジュールの予定が崩れる要素があるとすれば、一つは地元説明につまずいて一からやり直し。それからもう1つは、予算が26年度に付かなかつた。その2つが考えられます。だからまだあくまでも予定で、このとおりにいけば、丸々24カ月を必要とするような規模じゃありませんので、ぎりぎり28年度、年度内の完成という。

(渡辺委員)

住民説明ができればという話ですよ。

(泉区長)

あと、財政サイド、ちゃんとお金をつけてくれるかと、その2つです。

(岡本会長)

どうですか、あとは。しょうがないっていえばしょうがないんだよな。私どもが要望したのはもうほとんど入っている、議論したのは入っている。これを実現してもらうために、行政当局から頑張ってもらわないんだな。

(泉区長)

ぜひ皆さんからも頑張ってください、吹聴していただいて。

(岡本会長)

ということで、よろしゅうございますか。それで、今日出たご意見を、また事務局で十分検討していただいて、もし何か気がついたらまた後でいただくということで、今日が最後なので、私どもの議論していただいたものの集大成が大体こういうものだと。ただし、イメージがいまひとつ出ないというのは、これはやむを得ない部分がありますので、これでいっていただくということをお願いをしたい。

ここで11回会議をもったんですが、私どものこの検討委員会は、若さと、女性が多くいたと

ということで、本当にこの地域のこれからのまちづくりの拠点をイメージしながらやってもらったのを感謝したいと思います。じゃあ、今、議論した中で、この集大成で最終結論にしたいということで、皆さん、よろしゅうございますか。

—異議なし—

(岡本会長)

ありがとうございました。もうこれで解散ですから、資格もないし、権限も全然なくなるんで、今後の考え方というか、在り方みたいなのが、ちょっとあったら聞かせていただきたいと思います。

(泉区長)

これは何も地域課長や出張所長にお話ししている話ではないんですけども、私としては、引き続き地元の説明等もございますので、参考としてさまざまな意見をお聞きする機会もあるでしょうし、それからもう1つは、横山委員がおっしゃったように、多分もう構想が組まれたとしても、基本設計の段階でいろんな考え方がまた出てくると思うんですね。その際にできればご意見として、今度は検討委員会という形ではなくて、かつて検討委員会に参加された一市民の方々ということでお話を聞く機会もまた、あろうかと思っておりますので、その余地だけは残させていただきたいと思っております。これは検討委員会をもう一回再開するというものではありませんけど、一旦ここで解散はさせていただきますけれども、かつて加わったメンバーとして、この辺はこれでいいのかねという話、会って聞いて、地域課がまた聞きに行ったりすることもあるかと思っておりますので、ご協力のほどはお願いしたいと思っております。

(岡本会長)

皆さん、大変な1年間でしたが、貴重な意見をいただいて、これが恐らくこの地域のこれからのまちづくりの拠点到必ずなっていくと思っておりますので、あとは造っていただいたら、この運営方、使用方、活用の仕方、これが私どもこの地域の人に課せられたまた使命でもあるし、宿題でもあるかと思いますが、そこもまたみんなで、せっかくこの4人の皆さんから集まってもらったんで、またその運営の面においてもいろんなアドバイスをいただく機会もあるかと思っておりますし、一人一人がこの地域、まちづくりをきちっとやっていくんだということでまたご尽力をいただきたいと、こんなことをお願いしたいと思っております。

1年間、私、拙い司会で申し訳ございませんでした。いろいろご迷惑掛けましたが、皆さんの本当に貴重な意見いただいて集約することができました。ありがとうございました。(拍手)

じゃあ、「その他」でありますけれども、何かございませんか。

(泉区長)

長い間、委員の皆さま方にはお忙しいところご協力いただきまして、本当にありがとうございました

いました。昨年10月15日が第1回ということで、その際、私もお邪魔させていただきましたが、その後、今言ったような機能、それから内容、それから、建設候補地がどうあるべきなのかというお話も含めて、ご議論いただいたところであり、お陰さまをもちまして、この基本構想（案）をここまでめどを立てることができましたのは、ひとえに皆さま方のお陰でございます。本当にありがとうございました。

(岡本会長)

ありがとうございました。

(泉区長)

それから、なお、これから私どもがこの案を持って、また地元にお邪魔するわけでございますので、ぜひその際には応援部隊となっていて、広めていただきたいと思います。地元の方々の中にはいろんな意見を持っていらっしゃる方、まだいらっしゃると思っています。例えばホールの収容人数が200人程度でいいのかというところから始まって、また振り出しに戻ったりしながら、我々はできればこの「基本構想（案）」でもって今後、臨んでいきたいと思っておりますし、庁内的にもこれがぐらぐらしてまると、予算が遅れてしまうということになってしまふので、早急にそのめどをつけていきたいと思っておりますので、またご協力のほどをよろしくお願ひしたいと思います。

なお、今回初めてこんな形でやらせていただきましたけど、今後ともどうか、西区役所としては、区政運営は区民の皆さま方が主体的にやっただけければ、それを我々がサポートしていくという形が正しいやり方だと思っておりますので、これを機会に、この話だけではなくて区政全般に関わりましたお話も、いつでも私ども承りたいと思っておりますので、敷居高いと思わないで、ぜひ区役所のほうにも足をお運びいただきたいと思いますし、西出張所が近くでございますので、そこを通じてでも結構でございますので、これからも西区役所をご愛顧いただきますようお願い申し上げます。本当にどうもありがとうございました。

(事務局一同)

ありがとうございました。

(岡本会長)

これで今日11回、最終ですから、終わりたいと思います。本当にありがとうございました。

(一同)

ありがとうございました。